

生田緑地中央広場（人工池）におけるシマアメンボの異常な出現

高梨沙織*・川島逸郎*

Abnormal occurrence of *Metrocoris histrio* (White, 1883) (Insecta: Hemiptera: Gerridae: Halobatinae)
at an artificial small pond in the Ikuta Ryokuchi Park, Kawasaki City

Saori Takanashi* and Itsuro Kawashima*

都市化が著しく進行した現在の川崎市内においては、自然環境の良好な陸水域は、極度に減少している。そのような中、生田緑地の水系環境の指標を量るにあたって基礎的な情報を得るため、川島・高梨 (2017) により、水面を生活場所とするカメムシ目アメンボ類 (カタビロアメンボ科・アメンボ科) の生息 (分布) 調査が実施された。今回、流水性で、本来は源流域に生息するシマアメンボの4個体が、人工的かつ開放的な止水から得られたため、例外的な事例として記録しておく。

学名および種名は、前報 (川島・高梨, 2017) に従った。当該標本は、川崎市青少年科学館 (通称: かわさき宙 (そら) と緑の科学館) に収蔵、保管されている。

アメンボ科 Family Gerridae

ウミアメンボ亜科 Subfamily Halobatinae

シマアメンボ *Metrocoris histrio* (White, 1883)

採集記録: 1♀, 桁形 7 丁目 (生田緑地・中央広場南側の小池), 20170609, 高梨・川島採集, KMM-IN-19002198; 3 exs., 同前, 20170630, 川島採集, KMM-IN-19002199-19002201.

流水の源頭～最上流部にのみ生息する種で、生田緑地の中央部付近では菖蒲園南側の細流に限定して生息する。中央広場南側の小池 (通称: 「じゃぶじゃぶ池」, 図) は人工の止水であるが、通常、かなり人工的あるいは自然度の低下した水域でも生息するケシカタビロアメンボ、アメンボ (ナミアメンボ) およびヒメアメンボでほぼ占められる。この水域では平時、ヤスマツアメンボやオオアメンボ、本来であれば源流域に生息する本種はまったくみられない。しかし従来、この地点からは予想されていなかった本種が4個体得られた。開放的かつ人工的な止水水域への出現は、きわめて異常な例と

いえるが、いずれも無翅個体であるため、飛翔により移動が行われたとは考えられない。この小池には、きわめて規模の小さな湧水が南側から流れ込んではいるものの、暗渠となった部分も多い上に、人工的な加工もなされており、これまでに本種の生息は認められていない。この小池は、本種の生息地点 (菖蒲園脇の細流の源流部) (川島・高梨, 2017) からは距離も近いことから、人為による移動あるいは放逐の可能性もないとはいえない。しかし、今のところ、この止水域への移動経路は不明である。



図. 中央広場南側の小池 (本報での記録地点) .

引用文献

川島逸郎・高梨沙織, 2017. 生田緑地のアメンボ相 (予報) . 川崎市青少年科学館紀要, (27): 19–22.

*川崎市青少年科学館 (かわさき宙^{そら}と緑の科学館)
Kawasaki Municipal Science Museum